

2012.6.2(土)第9回海の森づくりシンポジウム於東京海洋大学

サハリンの昆布事情と 産地南茅部の昆布養殖の課題

昆布専門家 成田 省一

サハリンの昆布事情

1. 戦前は、樺太昆布として、北海道産の昆布と同等に扱われていた。その生産量は、サハリン島で3,000~7,000t、北方4島で25,000t前後であった。
2. 戦後は、「だし」の利用はなく、生のサラダ用に利用されてきたが、生の昆布の90%は腐って捨てられてきた。1999年から成田省一氏が天燃昆布の生産指導に当たっている。
3. 日産10t程度の昆布を50円/kgで販売してきたユジノサハリンスクの水産会社が2004年から日本の専門家成田省一氏を招き、輸出を目指し、乾燥昆布の生産に乗りだした。NHKはこれを2004年9月15日に放映した。
4. 成田氏は、乾し方、3段階の等級、日本市場に見合った乾燥方法の指導に当たり、日本とロシアの相互利益を目指している。

サハリンの昆布事情

- 本件に関しましては、2004年9月15日にNHKで放映されました

『サハリン昆布を日本に売り込め』

をご参照下さい。

産地南茅部の昆布養殖の課題

- ・年間乾物換算で3,000～4,000tの生産高を誇る函館市南茅部地区が日本の昆布産業を支えている。

課題：漁協改革

- ・年収800万から1,000万円/人があっても嫁が来ない。
 - ・昆布の価格はどんどん安くなって行く。
 - ・漁師は他人の意見を聞こうとしない。
 - ・北海道漁連の昆布業界独占が存在する。
- ・このままでは、南茅部の昆布養殖業は崩壊する。→外との交流の重要性